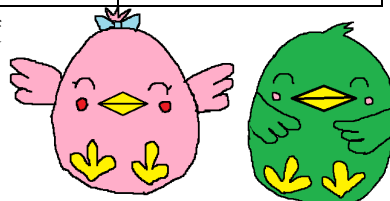


こぶしの花	☆学校教育目標(案)☆ 日々のめあてを持ち 心豊かで 主体的に生きる力を持つ子の育成 ～重点目標(案)～ 向上心の育成	市川市立国府台小学校 市川市国府台5-25-4 電話 372-4672 文責 校長 城戸 三郎
-------	---	--

一年生を迎え、全学年が揃って、一か月が過ぎました。昨年度は休校措置となり、子供達のいない中、時間が過ぎていきました。今年度は感染拡大防止のための様々な取り組みを行いながらも、子供達の元気な姿を見ることができます。特に登校時に子供達に、「おはよう」のあいさつをするたび、大きな声であいさつをしてくれる姿に喜びを感じる毎日です。手をつないで登校してくる一年生、妹の手をつないで登校してくる男の子や、少しぐずっている子を励ましながら教室に連れて行ってくれる高学年の子供達の姿を見るたび、この国府台小の子供達の良いところをさらに伸ばしていきたいと思う今日この頃です。



### 【今後の学校行事について】

本来であるならば、4月23日(金)には、学習参観を実施し、子供達の学習の様子を見ていただくところでしたが、今回の「まん延防止等重点措置」受け、中止と判断させていただきました。急な連絡で保護者の皆様にはご迷惑をおかけし大変申し訳ありませんでした。今後の学校行事につきましてお知らせさせていただきます。なお、今後の状況により急遽中止や変更がある場合がありますのでご了承ください。

- ・運動会：午前開催とし、給食終了後下校となります。種目数や種目の内容を制限、及び参観する保護者の人数を制限して実施します。前半低学年、後半高学年と分けて行います。保護者の皆様には密を避けるため、お子様が演技する時間帯のみの参観のご協力をお願いいたします。
- ・校外学習：感染対策を十分に行い実施する予定です。バスを利用する場合は、換気やマスクの着用を徹底し、飲食等はいりません。
- ・宿泊学習：宿泊場所や昼食場所での感染対策を十分に行い実施する予定です。バスを利用する場合、換気やマスク着用を徹底し、飲食などはいりません。現地までの移動について心配がある方は、保護者の方の送迎により現地集合現地解散での参加でも大丈夫です。

### 【全校歩き遠足・6組歩き遠足】

4月27日(火)に全校歩き遠足を実施しました。屋外での行事であることや、現地での食事をしないなど感染対策を取りながらの実施となりました。天候にも恵まれ子供達は公園を元気よく走り回っていました。ペア学年での行動となり、下学年の子供達の安全に気を付けながら、相手に寄り添い世話をする姿に高学年の自覚が感じられました。

また、28日(水)には、6組(あおぞら学級)が一中の院内学級の皆さんと歩き遠足に出かけました。院内学級を出発し、江戸川河川敷で中学生と一緒に元気に楽しく過ごしていました。さわやかな風を受け、笑顔で江戸川の土手を歩いている姿がとても印象的でした。

## 【お知らせ・お願い】

### ・車での送迎について

じゅん菜池側の門に送迎のための駐車が多くみられます。見通しの悪い場所での駐車は子供達の安全確保の上でも非常に危険です。横断歩道近くの駐車は絶対におやめください。

### ・交通安全について

例年、大型連休中の子供達の交通事故の報告が多くなります。学校でも指導をしていますが、各ご家庭でも自転車の乗り方や交通ルールについてお話いただければと思います。千葉県警察では「ひとこと交通安全教室」を公式ツイッターで配信しております。「千葉県警察 ツイッター」で検索していただき、「千葉県警察 Twitter」をクリックするとご覧いただけます。ご家庭でお話の際にご活用いただければと思います。

## 国府台小の歴史

＜創立50周年記念誌をもとに＞

国府台小の歴史につきましては、昨年度の5月号にも掲載いたしましたが、新入生を迎え、改めて記載をさせていただきます。この時期に、本校の歴史や、ここ国府台について振り返ることで保護者の皆様と歴史を共有していきたいと考えます。

本校の開校は昭和27年4月です。戦後、市川市の人口が急増し、昭和26年には真間小学校の児童数が2807名とふくれあがった状況により開校しました。しかし開校したものの教室が不足し、1、2年生は真間小の児童の授業が終わった後に登校して授業を受けるいわゆる2部制だったそうです。開校時は、真間小から高学年生が行列して椅子を運んだり、備品運搬や清掃を保護者の方々に担っていただいたり、苦勞も多かったようです。そして、20年後の昭和47年には本校在籍児童数が1430名（34学級）となり、中国分小学校が開校し分離しました。主な現施設については、校舎は第一がS43、第二がS47、第三がS51（55）に竣工、プールはS40、体育館はS63に完成です。プールは完成まで菅野小に徒歩で通っていたそうです。

一方、そもそもこの「国府台（鴻之台）」の名称ですが、以下の伝説もあります。「日本武尊が武蔵国に向かうとき、軍勢を従えてコウノ台に来たのですが、太日川（江戸川）をはじめ多くの河川が、洲を作って流れているのを見て、なんとか徒で渡ることはできないものかと思案していました。この時、コウノトリが飛んできて、浅瀬を教えたので尊の軍勢は難なく武蔵国へ渡ることができたといえます。尊はコウノトリに褒美としてこの台地を与えました。以後、コウノトリに与えた台地からコウノ台の地名が起こったと言われます。国府台は下総の国府が置かれたことから、この名がついたことは間違いはないのですが、上記の伝説から鴻之台とも書くようになったのです。」このようにコウノトリとも深い関係があることから、健やかに大きく羽ばたくことを願い、校章（右上）が制作され、更に校歌の冒頭、「緑はるかに 飛べこうのとり～」も創立翌年に制定されましたが、このような背景があるようです。また、この伝説を地域に目を向けますと、真間山下にある国府神社は祭神が日本武尊で、御神体が「コウノトリのくちばし」となっています。

